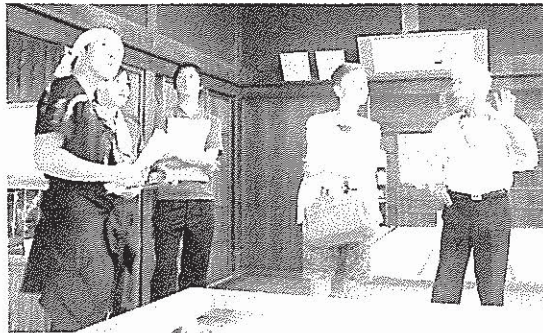




長和の農村文化体験「歩く寺子屋」 高校生らモニターング

長和町グリーンツーリ 木平森のまなびやに企
ズム協議会が信州・姫 画運営を委託している

体験学習プログラ
ム「歩く寺子
屋」でこのほど、
東京農業大学生
と丸子修学館高
校生が初めてモ
ニターングを行
った【写真】。

「歩く寺子屋」

中学校や高校を主な対
象に誘致。中山道和田
宿の歴史や文化を題材
にした設問の答えを、
同地域を巡りながらヒ
ントを得て導き出して
いく。数人のグルー
プでリーダーや記録係な
ど役割分担して進める
チーム・スタディーで、
問題の難易度が異なる
「基本コース」「遊学コ
ース」「難問コース」な
ど5コースがある。

今回のモニターング
は、東京農大が町と連
携し山村再生プロジェ
クトに取り組む中で、
同プログラムをより洗
練させるために協力。
東京農大と山村再生に
取り組む丸子修学館高
の生徒も、利用者視点
で意見を反映してもら
うため参加した。

企画運営の森のまや
びや事務局の小金澤喜
代治さんによると、学
生や生徒の意見から、
歩くコースの距離や回
答を導くためのヒント
の出し方、ガイドとし
て触れ合える地域の人
たちとの関わり方など、
さらに工夫を考えると
いう。県外だけでなく、
県下や上小地域の学校
の学びにも生かされ、
一般にも楽しんでもら
えるように内容の充実
を図っていく。

お問い合わせTEL 026

8・41・8258 (小
金澤さん)

東京農大生の挑戦 in 長和町 ④

山村に活力を

7月といえば秋まき麦の収穫期。標高600〜700mに位置する田では、大規模農家の転作の一環として二毛作が行われている。

7月実習では、昨年に播種した小麦の収穫を行った。手法は、昔ながらの手刈りによるはぜ掛け。試験栽培も兼ねた選定種は「ゆめかおり」。県農業試験場で育成

された耐寒性と耐病性のある強力粉で、パン加工適性が高い硬質な小麦。噛むごとに小麦の味わいが深まる特徴に着目した。今後は、この小麦を使ったパン作りも予定している。

カタチ作りとして、ブルーベリーの収穫とジャム作りも行った。加工用として、生食よりやや酸味が強いブルーベリーで、一般的な



▲小麦の収穫にあたり、事前に指導を受ける学生たち

収穫したブルーベリーをきれいに洗い、ジャムに加工する▼



方法で瓶詰めにして学生たちのお土産とした。

農業では、「援農」という観点から、農家と協働でアスパラガスの立茎を行った。アスパラは、町の転作物の奨励品種の一つ。

・尾美保
（長和町役場産業振興課農政係 大規模の農家で露地・ハウス栽培が行われている。）

アスパラガスの立茎をお手伝い

長和町長久保宿

「松尾神社秋の例祭」

東京農大学生が神輿奉納

長和町と協働で山村再生プロジェクトに取り組む東京農業大学の学生60人は1日、同町長久保宿の「松尾神社秋の例祭」の参加、神輿を奉納した。

この日の午前は、地元氏子らにより大山獅子舞を奉納。今年は3年に一度の道行きの年にあたるため、天狗の先導で神社まで区内を練り歩いて奉納した。

そして午後は、学生ら



威勢の良い掛け声で神輿を担ぐ学生ら

が担ぐ大人神輿に子ども
の神輿が加わり、境内か
ら中山道長久保宿を練り
歩く。沿道で待ち構えて
いた人たちは、威勢良く
神輿を目掛けてホースや
バケツで水を浴びせる。
担ぎ手は全身ずぶぬれに

んなに水をかけられるの
はあり得ない。みなさん
の温かい気持ちが伝わる
と笑顔で話し、見物して
いた70代女性は、「若い
人たちが担いでくれて、
にぎやかで楽しい」と語
っていた。

なりながら、
祭りを満喫
していた。
東京農大・
望月洋孝助
教は「身体
全体で町の
伝統文化を
体感できる。
丸子修学館
高校の生徒
10人も参加
してくれて
と話す。担
いでいた学
生は、「こ

彩り豊か大山獅子 長久保甚句奉納も

長和町長久保の松尾神社

復活25年目 秋祭り 「道行き」 3年に1度の

長和町長久保の町文化財指定の松尾神社で1日、秋祭り（金澤正廣実行委員長）が開かれ、大山獅子祭が行われた。獅子祭は毎年行っているが、今年のは町内、堅町から神社まで練り歩く「道行き」が行われた。



3年に1度の「道行き」(長和町長久保)

先頭を行く一本歯の高下駄を履いた「天狗」には竹内淳さん(36)がふんした。「蠅追い」には、わかば保育園の年長男児6人が衣装を付けて後に続いた。小



天狗を先頭に大山獅子の「道行き」



長久保甚句の奉納(松尾神社境内)

学4から6年生17人と大人の大人が奏でる笛と太鼓のお囃子に合わせて舞うのは獅子3頭。この後に太鼓を持つなど世話係りを務める東京農業大学の学生60人が参加し、長い行列となった。松尾神社では総代など関係者が参加し、神事が行われた。神事後、大山獅子が境内に到着すると「本舞い」と長久保甚句(翠川寿保存会)が奉納された。午後からは神輿4基が練り

出し、東京農大生や丸子修学館高校の生徒も参加した。

松尾神社は1557年、京都の松尾大社の末社として建立。この地鎮祭で獅子舞を奉納したのが始まりだという。以後、祭りを行っていたが、いつごろから途絶えてしまった。昭和63年に復活し、毎年行っている。「道行き」は3年に1度しか行わない。今年は復活25年目。

東京農大生は「山村再生プロジェクト」の学習で長和町に訪れている。祭りには5年前から参加。4年生の柳屋遊生さんは「今年で参加4回目、伝統的な祭りはすべてが新鮮。地元の人たちとの交流も貴重な体験」。3年生の國府田彩音さんは「祭りを実際に見るのは初めて。とても楽しい」と話していた。